

第4回彦根市スポーツ推進計画策定委員会 会議録要旨

【日 時】平成29年2月15日(水) 10:00~12:20

【場 所】彦根市民会館 第2会議室

【出席者】別紙名簿のとおり

1. あいさつ

[委員長]

雪が深くなり、寒い冬を迎えている。計画の検討も最終段階のまとめに入ってきた。

前回、計画について様々な意見をいただいたが、今回は最終段階として、会議が充実したものに、さらには、計画のグレードアップにつながるよう、知恵をいただきたい。

2. 議題

(1) 計画素案(案)について

【I はじめに】

[委員長]

計画内容を分割して検討する。

アンケート結果について、テーマが後ろに来ており、項目に番号をつける等、わかりやすくした方がよい。後ろに「運動不足を感じている人は8割となっている」といったコメントが入るようなイメージで、見やすい表記にしてもらいたい。

[副委員長]

「現状」や「課題」等、コメントにタイトルをつけた方がわかりやすいのではないかな。

[委員]

文章が多いと読んでもらえない。コメントと表の間に空白を作ったり、項目に番号を振ったり等、見やすくしてもらいたい。また、重要なところはフォントをゴシックにしたり、波線をつけたりなどの対応、コメントには「現状」「比較」「問題点」「課題」等の見出しをつけてはどうか。

ページ下段にある用語解説の文字について、年配の人にも配慮して1ランク大きくしてもらいたい。

関心のある人に読んでもらいたい。全体的にはかなりまとまってきた。あとは見せ方が大切。

[副委員長]

小中学生のアンケートについて、「スポーツが好き」の回答に枠がついている。むしろ「嫌い」の意識をもつ子どもが20%いることが課題である。

[委員]

ここで何を言いたいのかが問題。課題を見つけて克服するのか、「好き」な子どもが多いので、今後は特に対応が不要と考えるのか、どちらをピックアップするのかわ変わってくる。

[委員長]

コメントをつけるのも難しい。いずれの点をクローズアップしていくのか。スポーツ好きの子どももたくさんいるが、否定的な意見もいくつかあるところを出してもよいかもしれない。

最後は行政の思いを盛り込んで、課題に結びつけていくようにしてはどうか。例えば、「スポーツが好きだと感じているが、不足と感じている人もいる」というような表現にしてはどうか。

そういった意味では、グラフ内の枠は削除した方がよい。

[委員]

課題を出したいのであれば、最初に褒めて、その後課題をつけるようにすれば、ポイントがわかる。

[委員]

現状課題を整理するのもよいが、その後の取組まで考える流れが大切。イメージの問題もあるが、よい評価があって、その後に課題を記す。課題ばかり出していくのも問題がある。

[委員長]

団体アンケートは記述型で実施したのか。

[事務局]

選択型の問もある。団体別で聞き方が異なっている。

[委員長]

どのように整理するのがポイント。

[事務局]

団体アンケートの結果をそのまま掲載しているわけではない。

[委員]

各団体にどういう趣旨でアンケートをとったのか表記がない。アンケートの趣旨等を入れておいた方がよいのでは。このままでは、市民アンケートとの違いもよくわからない。

[事務局]

コメントの前に説明を入れたい。また、どの団体を対象にアンケートを実施したのか、参考資料として、巻末に挿入したい。

[副委員長]

アンケートを実施したのは市民スポーツ団体、競技団体、学校等だと思うが、そういったところを表示しておくとうわかりやすい。また、共通の課題などがあれば、そのように表記してはどうか。

[委員長]

各団体の活動や使命を書いて、それぞれが問題視しているところを挙げておけばよいのではないかと。

[委員]

概要資料の推進体制の図はわかりやすい。例えば、本編の「はじめに」の辺りに推進体制の図を入れるなど、全体像を見せておいた方がよいのではないかと。

[事務局]

推進体制の図については、24ページに挿入する予定。

[委員]

こういった団体が活動しているのか、最後まで読まなければわからないので、最初にみせるかどうかの問題。各主体を示してイメージできればわかりやすいのではないかと。

[事務局]

推進体制の図は、計画の前段とも関連している。計画としては、団体それぞれがつながっているイメージを見せたい。もし、前段にスポーツに関わりのある主体を見せるのであれば、どのような団体が活動しているのかは表示しておく。各団体同士を「つなぐ」イメージについては後段で表現したい。

【Ⅱ めざす将来像】

[委員]

よくできていると感じる。

「身障者更生会」自体が高齢化してきており、スポーツができる人は少なくなっている。400人の会員がいるが、活動にはほとんど出てこられない状況で、寝たきりの人もいる。軽い運動への参加を呼び掛けても参加者が少ないのが現状。

身体障害者の手帳発行について、市から情報を提供してもらうことが難しくなってきたり、若い人に入会を呼び掛けづらい状況がある。個人情報保護がネックになっているが、更生会のメンバーに聞いても、同じような指摘がある。また、子どもが障害者であることについて、親が隠すケースもあり、障害者のスポーツイベントに親が参加させない例もあると聞いている。障害者スポーツに関しては、場所や交通手段についても問題になることがある。

学生や30～40代の人に面白い競技があることもPRしたいが、進んでいないのが現状である。

[委員長]

アンケートのとりまとめの箇所に、障害者スポーツに取り組む団体への加入者増や障害のある人が親しめるような輪を広げる展開、あるいは模索していることなどを表記してもよいのではないかと。

[副委員長]

国の計画改定の際に「する」「みる」「ささえる」に「知る」が加わった。彦根市においても探っていったらどうか。

[事務局]

「学ぶ」のキーワードについては、前回委員会で指摘をいただき、文言を加えた経緯がある。国では「知る」が前提になっていると整理されている。このような趣旨も踏まえ、今回の表現にした。

【Ⅲ 基本方針・施策】

[委員長]

基本方針と施策の全体像は、もう少し見やすく文字を大きくできないか。全体的に小さい印象がある。施策等については、市の方でしっかり議論してもらっていると理解する。一方、指標については、市民も取組が一目でわかるものであり、十分な検討が必要である。

[委員]

指標の現状値について、アンケート結果から採用されているようだが、どこから採用したのか、このままではわかりづらい。

目標について、どのような根拠で設定したのか。平成32年に進捗をチェックして訂正されるのかもしれないが、達成が容易な数値なのか、努力が必要な数値なのかわかりづらい。

[委員長]

私自身も、かつては行政にいたが、指標についての指摘については、ぶつかってくる大きな課題であると感じる。なぜその数値に設定されているのか、その根拠等について考えていく必要がある。

[委員]

例えば、全国平均と比較できるような情報があればわかりやすい。指標それぞれによって異なると思われるが、そういった説明が必要ではないか。

[事務局]

算出の式等を補足している計画はある。設定の根拠について、これまでの推移、現状等を踏まえて将来予測を行い、目標年度に目標値に到達することが明確に説明できる指標と難しい指標がある。他の行政計画でも、同様の状況である。

[委員長]

新体力テストの結果を指標にしているところはわかりやすい。計画内に関連する情報が提供されているのであれば、何ページのどこから採用している等の根拠を示してはどうか。

また、体力テストの総合点となる「56点」という情報も計画内には示されていない。現状と目標値を関連付けるのであれば、現状のところに総合点を入れておく必要があるのではないか。

[委員]

なぜその指標が採用されているのか、根拠がわからない。子どもに関連する箇所であれば、新体力テストが指標に採用されている点は理解できるが、幼児期の子どもに関する指標が見当たらない。

[委員]

平成32年にチェックをかけると思われるが、その際には行政の担当者も変わっていると思われる。根拠等が示されていなければ、その辺りの「思い」が継承されないのではないか。そういう結果につながってしまうのであれば、最初から出さない方がよいのではないか。

[事務局]

計画の進行管理について、行政としてはPDCAのサイクルの中で、例えば平成29年に取り組んだ具体的な施策等について、全庁的にチェックをしたい。推進計画に表記している指標もあるが、さらにブレイクダウンした指標的な数値も参考にチェックしたいと考えている。成果指標とは別の実績的な数値を落とし込んだもので進行管理をしていきたい。

[委員]

PDCAのサイクルでの取組は理解できるが、指標をどのように定めて、どのように進めていくのかがわかりづらい。目標値が高いのか低いのか、そのレベルもわからない。

[副委員長]

体力テストの結果を向上させるために、スポーツを無理強いすることで運動嫌いになる懸念もある。例えば、彦根市の子どもについて、体力が劣っている種目を中心に対策を取る方向性であれば、取り組みやすいのではないか。5年前の体力テストの結果から向上を目指すのであればやりやすいが、総合的に向上を目指すとなると大変ではないか。

彦根市では「学童期」という表現をするのか。別の表現として「幼児期」「生徒期」といったものもあるが、どのように使っているのか。

[事務局]

確認する。

[委員長]

体力テストについて、各種目では回数等の数値を伴う結果が出てくるが、その辺りがわかりづらいため、総合点の概念が出てきた。学校現場ではやるべきことがたくさんあり大変な状況がある。弱い箇所を中心に対策をするのであれば、わかりやすいのではないか。

「スポーツ」や「運動」の定義はどうなっているのか。「スポーツ」と聞くと、チームでがんばるようなイメージがある。個人で取り組む体操等は入るのか。

[事務局]

アンケートでは幅広く捉えてもらっており、「ウォーキング」等も入れている。指標としての表現として「運動・スポーツ」とした方がよいのかもしれない。

[委員長]

運動・スポーツの実施率について、なぜ60%に設定したのか。

[事務局]

国の指標は65%となっているが、いきなりそのレベルに設定することは難しいと考えた。この計画は彦根市にとっては初めての計画であり、どこまで伸びるか未知数の面もある。

[委員]

国や県の目標がわかれば、そこまでがんばろうと思うが、何の情報もない状況では60%と設定されても、しんどいイメージがある。シンプルに国や県の目標値に合わせるのもよいのではないか。

[委員長]

国の目標年度はいつに設定されているのか。備考欄にそういったことを表示してはどうか。

[事務局]

国や県の目標値を参考にしていない地域は他にもあると思われる。他の市町の目標値と比較することは難しいが、国や県の目標値を参考にして表記することは可能だと考える。

[委員]

表記することで、少しでも納得感をもってもらえるのではないか。

[委員長]

65歳以上の介護の比率もなぜこの数値に設定しているのか。

[事務局]

平成32年は約20%程度になるとの根拠があり、少しでも減らす意味合いで19%に設定した。何も手を打たねば、増えていく数値になっている。

[委員長]

そのような知識がある人は少ないのではないか。

[副委員長]

運動・スポーツの実施率について、国の目標値を出すのであれば、介護の比率についても同じような対応をしてはどうか。

[事務局]

参考にできる数値が出せる項目は出していきたい。

[委員長]

障害者スポーツに関する目標値はどのようになっているのか。

[事務局]

障害福祉課で根拠を持っている数値を参考になっている。

[委員]

彦根市のスポーツフェスティバルは、運動会のような催しであり、その参加者数を考えておられるのではないか。

アスリートと一般の人とは違って来る面がある。395人の現状値は、軽い運動を含むものになっている。他の大会もあるのでわかりにくい面がある。

[委員長]

障害者スポーツに関する指標を設定していくことには賛成したい。

スポーツを支える人の割合を上げていく必要があり、スポーツイベントでのボランティア活動者数の目標値について、少しでも増やしていくことは必要である。

スポーツの観戦者率の目標値の35%について、家で見えてもカウントすることになるのか。カウントの方法や「分母」をどのように考えるのか。

[委員]

観戦者率は市民アンケートで聞いているのか。

[事務局]

計画の前段には掲載していないが、市民アンケートで確認した数値となっている。

[委員]

市民アンケートには、スポーツ観戦の定義が記されていると推察するが、計画に掲載していない数値を目標値と設定するとわかりづらいのではないか。現状と目標値の関連性が薄い。

[委員長]

本来であれば、国際大会等を直接観戦できるような機会を提供することが必要ではないかと思うが、実際にはそういった機会は少ない。

[事務局]

ここでの観戦者は、実際の大会等を観戦した割合を想定している。ただし、国際大会とは限定していない。

[委員]

数値を向上させるなら、大きな大会を誘致するとよいが、一方でそういった対応でよいのかという気もする。

[事務局]

市民体育センターの再整備を控え、「みる」スポーツの関心を高めたい。トップスポーツに限らず、子どものスポーツの応援や地域のスポーツをみるといった行動も含め、実際のスポーツをみてもらいたい思いをもっており、目標値として設定している。将来的には陸上競技場も再整備されるため、レベルの高い大会についても観戦してもらいたい。

[委員長]

施設が整ってくれば達成は可能だと考える。

スーパーカラム大会参加者数やレンタサイクル利用者数については、彦根の文化等の面にも関連する。

[委員]

レンタサイクルの利用者数については、観光客を増やせば増えるのではないか。

[事務局]

自転車を利用して市内をゆっくりと観光してもらいたい。

[委員長]

市としてはそういった取組を促進しているのか。

[事務局]

レンタサイクルの運営について、NPOに委託しており、その活動を支援している。

[委員]

自分の自転車を使ってもよいのでは。レンタサイクルとなれば観光施策ではないのか。

[事務局]

観光とスポーツが連携した施策でもある。

[委員]

飛躍があるのではないか。

[事務局]

NPO法人にヒアリングをした際、観光面だけの効果でないことも明らかになった。スポーツサイクルを購入する前に、レンタサイクルで試されることもあると聞いている。

[委員]

目標値について、スポーツタイプのレンタサイクルの利用率等にしてはどうか。スポーツとレンタサイクルとの結びつきがわかりづらい。

[委員長]

自転車もよいが、荒神山の遊歩道や鳥居本の遊歩道、中山道の活用も考えられるのではないか。彦根は史跡巡り等のネットワークがある。また、将来的には体育センターの周回でランニングできるような環境が整う。そういった率を上げていくなど、にぎやかに取り組み、一般市民の運動・スポーツの広がりにつながっていくのではないか。

[委員]

自転車とスポーツの関連として、彦根市にはサイクルロードがないのでは。近江八幡市等はサイクルロードがある。そういった整備も必要ではないか。

ビワイチについても、彦根付近は道路環境の面からサイクリングするのが怖いところもある。長浜等は比較的乗りやすい。

[委員長]

自転車は車道を走らねばならないが、狭い道路で走るのは危ない。施策として、まちづくりとして担保せねばならない面もあるのではないか。

[副委員長]

レガシーを標榜するのであれば、施設・機会等いずれでもよいが、レガシーに関する指標を作ってはどうか。それがサイクルロードやランニングロードでもよいのではないか。

[委員]

金亀公園に「徒歩〇km」等の表示があったが、公園の周りを歩きやすいような環境を整えていくことにも着目してもよいのではないか。

[事務局]

再整備の計画では、ウォーキングやランニングの距離表示について検討されている。

【IV計画の推進、全体】

[委員]

まとまってわかりやすいが、数値目標の根拠があれば、よりわかりやすい。

[委員]

まとまっていると考える。今回配布されている概要資料は配布するのか。

[事務局]

概要資料は委員会用の資料と考えている。

[委員長]

素案について「彦根市」の表記がない。

[事務局]

最終的に冊子としてとりまとめる際には、策定主体の表記も入れたい。また、問い合わせ先や写真やイラスト等も考えていきたい。

[委員]

推進体制の図で、「(仮称)彦根市スポーツ推進計画評価委員会」は、関連する団体の全体を示すのか、委員会自体が存在するのか。何を指し示しているのかわかりづらい。

[事務局]

説明文の最終段落に表記しているが、計画のチェック機関として、行政の内部評価はもちろん、外部評価組織として評価委員会を立ち上げる予定をしている。

[委員]

矢印を入れる等チェック機能を果たすことがわかるように表記してはどうか。

[委員長]

推進体制に「個人」の市民は含まれないのか。団体に加入しなくても頑張っている人もおられる。

[事務局]

概要資料の「市内」は「市民」の誤りであり、訂正をお願いする。イメージ図では、個人の表記は難しい。

[副委員長]

「(仮称)スポーツのまちづくりを進める会」は、草の根レベルで活動される人も入って来ることを想定しているのか。

[事務局]

草の根でやっている人も取り入れたい。所属団体の肩書きでなく、公募も含め個人として参画してもらえればと考えている。

[委員]

策定委員会は推進体制には入らないのか

[事務局]

策定委員会は計画を作るための委員会であり、推進体制には入っていないが、計画の策定経過などを資料として挿入し、その箇所でもふれるようにしたい。

(2) その他

[事務局]

今後の予定としては、本日の意見を踏まえて修正し、委員長ならびに副委員長と調整させていただきたい。意見を取りまとめ、17日の午前中に委員長から教育長に策定委員会からの提言の形で提出していただく予定としている。

その後、市民の意見を広く聞く市のルールに則り、2月20日から3月21日までパブリックコメントを実施する。ホームページにも素案をアップする。

策定委員会としては本日が最終回となり、パブリックコメントによる意見の反映については、教育

委員会で責任を持って対応する。その後、最終的には教育委員会会議に諮り、3月中に計画を策定したい。

計画書印刷については、4月以降のできるだけ早い時期にレイアウトデザインを行い、本編、概要版を作成し、周知を図りたい。

次年度は、推進体制にある「(仮称) スポーツのまちづくりを進める会」を立ち上げたい。策定委員会は、各団体からの推薦など、各主体からバランスも考慮してメンバーを構成させていただいているが、「進める会」は、彦根で活躍されているたくさんの市民に参画いただき、自らスポーツのまちづくりを進めていただく会にしたいと考えている。皆様におかれても、是非参画いただきたい。

[委員長]

議会との関係はどのようになっているのか。

[事務局]

議会へは報告することになる。議決事項にはなっていない。総合計画にぶら下がる個別計画となる。

[委員長]

新年度以降に公開されていくことになる。担当部局はどのような施策をうつのか、指標に対して、どのような進捗を図っていくのかがポイントになる。

[委員]

彦根市には彦根市体育協会があるが、障害者スポーツに関連する団体はないのか。

[事務局]

障害者スポーツに特化した団体はない。

[委員]

彦根市に障害者スポーツに携わる組織があればよいのではないかと。滋賀県には、滋賀県障害者スポーツ協会がある。県でも様々な施策に取り組んでおり、そういったところとも連携が取れていないと感じる。できれば、彦根市でもそういった組織を立ち上げてもらいたい。守山には障害者スポーツ協会があり、パンフレットも発行されている。こういったことができれば、取組が進んでいくのではないかと。

[委員長]

団体を立ち上げ、横の連携や行政とどう関わっていくのか、委託事業を受けて組織拡大を図るなど、様々な手段が考えられる。こういった場で話をするのはよい機会である。体育協会や行政とも連携し、実現できるようになればよいのではないかと。

[事務局]

8月から4回の会議へのご協力にお礼申し上げます。計画が推進され、笑顔があふれる元気なまちになるよう努力していく。今後ともご協力よろしくようお願い申し上げます。